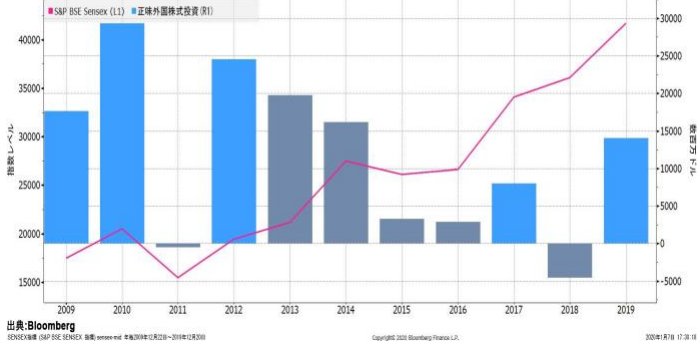


ハイライト

外国パワー

海外からの資金流入によりインドの主要株式指数が更新



インドの大型株はベンチマークとなる株式指数が4年連続して上昇したことから、2020年も勝者となる可能性が高い。世界的な不確実性により、投資家は経済よりも速いテンポで着実な伸びを見せている安全な優良株へと向かう傾向が続く可能性がある。ルピ-よりも外国人買いが優勢となる中、グローバルファンドからの大量の資金流入が記録的な株価上昇を牽引している。2018年の投資額は3,301億ルピー（43億9,000万米ドル）であったが、2019年はインド株に1兆100万ルピー（144億米ドル）が投資された。2014年以来の最大の資金流入が見られたことは、投資家が経済の減速を大方織り込み、インドへの外国ポートフォリオの投資保有高のかなりの部分が長期投資の性質をもっているか、またはベンチマーク化されていることを示唆している。インドの収益の伸びは、新年における株価を支えていると見られるもう一つの要因である。経済回復の可能性、法人税率の切り下げ、銀行の不良債権の整理、平均を上回るモンスーンと中央銀行の寛容な姿勢などが見通しを明るくしている。NSE Midcap 100 および Nifty Smallcap 100 指数のいずれもが相場上昇に遅れを見せているものの、政府改革や経済回復が今後進んでいくとの楽観的な見方により、より広範な市場が今後追いついていくケースを支援することになるであろう。

(出典: Bloomberg, Goldman Sachs, Kotak)

インドの銀行株からなる Bankex 指数は、銀行による中小企業や自宅購入者への貸し出しを奨励し、資金が枯渇している不動産市場を救済し、成長を刺激するという RBI の新方策を好感し、上昇した。銀行は7月31日までの期間、自動車・住宅・中小企業向けの新たなローンに対する強制的な4%の支払準備率を確保しておくことが免除される。規則緩和はまた、少額の借り主に対するローン分類にも拡張された。

(出典: Bloomberg)

インドのサービス部門は7年来の最高指数に達し、アジアの第3の経済大国において経済回復が進んでいるとの見方を支持するものとなっている。IHS Markit が発表した1月のサービス購買担当マネージャー指数は、1月に55.5に上昇した。複合指数は、製造とサービス部門の両方において改善が見られたことで、2013年1月来最高の56.3に上昇した。インドの上向いた成長にはインフレ圧力の上昇が伴い、2013年2月来最も急激なインプットコストの上昇が見られ、アウトプット価格のインフレはほぼ2年来の高値となっている。

(出典: Bloomberg)

短期債に旨味が出る

RBIの長期レポの発表を受け、短期債の価格が急騰

■ IGB 7.32 01/28/24 ■ 2月5日終了 ■ 6.2268 ■ インド国債3年物の一般的な入札



インド連邦準備銀行はレポレートを5.15%に維持することを決定したが、その寛容な姿勢を保つことでさらなる金融緩和策への可能性を残した。RBIは従来とは異なる政策ツールに着手し、代わりにルピーを投入することで成長を刺激し、借り入れコストを削減することを選択した。1兆（140億米ドル）という資金の1年から3年の資金調達活動は、銀行への安いローンを提供するため ECB が実施する長期レポに似通っている。

RBIの発表を受けて、社債のイールドカーブ全般にわたり平均利回りが下がり、上位の3年債は19ベーシスポイント急落し、6.51%となり、2005年来の最低値となった。

インドの上位のシャドー金融業者の借り入れコストは2019年12月以来下がり続けており、同国の長期化しているクレジット危機が薄らぐかもしれないことを示唆している。同様の満期の政府紙幣に対するノンバンク貸し手のAAA格付け5年債に対して投資家が支払ったプレミアムは1月には16ヶ月ぶりの最安値にほぼ近づき、債券スプレッドの評価尺度の強化に一役買う形となった。小規模業者から巨大企業まで、誰にでも貸し出す同国のシャドーバンクの健全性が回復したことは、同部門の緩和のため政策立案者が講じた政策が功を奏していることを示している。

(出典: Bloomberg, RBI)

重要な情報

このレポートは株式 / 単元をオファーするものではなく、推奨、意見または広告を提示するものではありません。また、将来起こり得るいかなる証券の利率や価格の動向を予測、または提示するものでもありません。上述の内容は情報提供のみを目的としており、本書を受け取る個人の特定の目的、財務状況、および特定のニーズを考慮したものではありません。本書をご利用のお客様は、言及されている証券や金融商品または投資戦略への投資の妥当性に関しては、別途助言をお求めください。

お客様の投資目標を達成する上で、当社ができる支援について詳しくお知りになりたい方は、当社の UTI 投資担当者にお問い合わせいただくか、www.utifunds.com をご覧ください。

Signatory of: